

会議録

会議の名称	第3回子ども・子育て審議会計画専門部会
開催日時	令和6年7月2日（火曜日）午前9時30分から11時20分まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：小野部会長、井上委員、小林委員、齋藤委員、島崎委員、菅野委員、中村委員、武田委員、篠原委員、平野委員 事務局：遠藤子育て支援部長、菱川子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、中村幼児教育・保育課主幹、河野児童青少年課長、宮崎子ども家庭支援センター長、栗林子育て支援課長補佐、倉本子育て支援課副主幹、岡田子ども家庭支援センター長補佐、本谷子育て支援課調整係長、越川子育て支援課調整係主任、須藤子育て支援課調整係主事
議題	1 議題 (1) 子どもワークショップについて (2) 計画の構成について (3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて (4) 計画の名称について 2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市子どもワークショップ企画案 資料2 子育て・子育てワイワイプラン（令和7年度から16年度まで）構成（案） 資料3 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の見込みについて
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
1 審議 (1) 子どもワークショップについて ○事務局 資料1に沿って説明 ○小野部会長 3月のオンラインの打合せには、平野委員、井上委員に参加いただき、5月の武蔵野大学での打合せには、小林委員に参加いただいた。 また、6月は、高松ゼミの学生と高松先生の授業であるフィールドスタディーズ履修生が参加し、ファシリテーターの分担などを行った。現在、学生とはオンラインベースで打合せをしている状況である。 7月3日にファシリテーター向けの研修や、子ども会議参加にあたって子どもとの接し方で注意することなどを説明する授業を予定している。そして、Day1のアイスブレイクや、子育て・子育てワイワイプランと西東京市子ども条例のパワーポイントの確認などを行う予定である。 資料に限らず、質問や提案など自由にご発言いただきたい。	

○平野委員

D a y 1 では、講座の間にキャンパスツアーを入れて、実際に見て回り、こういう場所が良いと考えられる構成が良い。共有の時間に、サードプレイスの概念を入れられると居場所に関する気づきにつながると思う。

D a y 2 のワークショップでは、言葉や概念だけではなく、子どもが絵を描いたり、写真のコラージュをしたり、パソコンが得意であればパワーポイントでも良いので、具体物を作ることができると思う。子どもがいろいろな意見を出したり、個々の強みが発揮されると、その後のプレゼンにつながると思う。

D a y 2 はワークとして何をするのか考えていければ良いのではないかな。

○小野部会長

キャンパスツアーの振り返りとして、サードプレイスのような、学校でも家でもない居場所があると落ち着くというコメントを学生から話してもらいたいと思う。アイデアの共有の時間は、キャンパスツアーで撮った写真を画面に映しながら、各グループのアイデアを共有する想定なので、大学生から参加者に何を伝えるかを考えてもらうようにしたい。

D a y 2 のワークショップでは、写真のコラージュを子どもが作る提案であるか。

○平野委員

子どもが作るイメージである。例えば、みんなで1つの絵を描いたり、D a y 1 でインプットしたサードプレイスについて、それぞれがほっとできる場所や、わくわくする場所の写真をD a y 2 までに撮って、持ち寄り、みんなで切り貼りすることもできるのではないかな。子どもが能動的に取り組めるワークができると良いと思う。

○小野部会長

写真を撮ってくるのは良いと思うが、参加者が写真を印刷して持ってくるのは手間がかかると思う。

○井上委員

小中学生は、教育委員会から支給されているタブレットがあるので、撮影することは可能だと思う。

○小野部会長

中高生の場合は、スマホを持っている子が多い。持っていない子がいる可能性もある。

○井上委員

中学生も同じタブレットを使用している。

○平野委員

経費が分からないが、写真をフォームに送り、事務局が印刷するのはいかがかな。

○小野部会長

保護者にフォームに送ってもらうこともできると思う。ビジュアルで見ることが大事

なので、写真があると良い。

○篠原委員

子ども主体の活動は、とても良いと思う。そして、主体的な子どもを考える大人も増えると良い。D a y 1からD a y 2まで期間があるので、D a y 1で体験したことを家で伝えたり、兄弟や周りの人に聞いてみるなど、活動が広がる仕掛けがあると良い。

写真が撮れない場合は、本や雑誌などを持ち寄っても良いのではないかな。

○平野委員

本や雑誌からのコラージュは、個人的な作品としてまとめるのであれば、利用できると思う。

○小野部会長

家の人や友だち3人くらいに聞いてくるというのもやっても良いかもしれない。3週間あるので、振り返りにもなると思う。

D a y 2当日に持って来るものを検討したい。

○齋藤委員

子どもが意見を求められて、発言することは良いと思う。子どもは、説明を聞いている時や他の人が話している間はいろいろなことを考えているので、指名された時だけ発言するのは意見の取りこぼしがあると思う。

例えば、説明の間に思ったことやキーワードなどを手元でメモできるようにして、説明後に回収すると、子どもの考えを知ることができると思う。

○小野部会長

ワークショップでは、会場に模造紙を貼り、考えたことを付箋で貼ってもらう形式がよく見られる。子どもに付箋を渡して、考えたこと書いて貼ってもらうのも良いかもしれない。

○平野委員

付箋に意見を書くことは、中高生にとっても良いと思う。しかし、小学生は聞きながら書くのは難しいので、クエスチョンマーク、「へえ」のようなリアクションができるカードを使用すれば、ファシリテーターが反応を拾える。

質問に対してなかなか手を上げることができないので、分かるか分からないかの判断がしづらいと思う。

○小野部会長

聞きながら書くのは高校生からならできるが、中学生も難しいかもしれない。クエスチョンのカードも、全体の説明のでは難しいかもしれない。グループワークでは活用できるだろう。

○井上委員

事前にプリントを渡して、書き込めるようにする方法もある。

○小野部会長

Day 1では、大学生がワークシートを作成する。ワークシートは子どもが気になることを書き、それを元に感想をグループで共有する予定である。

○小林委員

子どもとの接し方の注意点として、学校生活についてあまり詮索しないほしい。

○小野部会長

色々な状況の子どもがいるので、学校のことだけでなく、家庭のことにも配慮してほしい。

○篠原委員

アイスブレイクの自己紹介は子どもがする想定か。関係性を作るうえでは、参加者だけでなくファシリテーターも自己紹介に参加した方が良いと思う。

○小野部会長

基本的に大学生は3回とも同じグループのファシリテーターになるので、自己紹介は、参加の子どもだけでなく大学生も一緒にできると良い。

○島崎委員

小学生は、20分間も同じテーマを聞いていられない可能性もあるので、小グループディスカッションの30分と一体化する形で構成するのはどうか。

西東京市子ども条例の説明後にワークを入れて、その後に子育て・子育てワイワイプランの説明とワークにした方が、説明を聞いて思いついたことを忘れないと思う。

○小野部会長

西東京市子ども条例と子育て・子育てワイワイプランのそれぞれで説明とワークを行う構成にできると良いと思う。

○菅野委員

ディスカッションのグループはあらかじめ決めるのか。

○小野部会長

事務局であらかじめグループ分けを行う予定である。

○菅野委員

Day 1のスケジュールが詰まっていて、後半に疲れてしまうのではないか。説明の時も小グループになるのはいかがか。最初の導入の仕方が大事と感じる。

○小野部会長

各グループで大学生が同じ内容を説明することが難しいので、説明は全体で行う予定である。そのため、説明を聞いて子どもが理解できたかを確認して、各グループでフォ

ローできるかだと思う。

○篠原委員

説明は、長い文章、長い時間は難しいだろう。キーワードを聞いてどう思ったかという導入があってから、説明をした方が良いと思う。大人が聞いても難しいテーマであるので、どのように子どもに分かりやすく伝えるか。

○菅野委員

子どもは聞いていないようで聞いていて、理解をしている面もあるので、仕掛けが大事だと思う。

○小野部会長

本日のご意見は、次回の大学生とのワーキンググループで提案したい。

また、委員の方々にも当日会場でアドバイスをいただきたいが、大人が多くなってしまっているので、Day 1、Day 2の様子は計画専門部会で報告させていただくこととした。なお、今まで大学生との打合せに参加いただいている井上委員、小林委員、平野委員には、都合がつけばDay 1、Day 2にご参加いただければと思う。

Day 3は、市への発表になるので、ご都合がつく方はどなたでも参加していただきたい。

○委員

異議なし

(2) 計画の構成について

○事務局

資料2に沿って説明

○小野部会長

次期計画は、こども基本法施行や若者が対象に含まれることなど、現行計画と変わる点が多くあるので、構成も現行計画から組み替えている部分がある。

○菅野委員

現行計画の策定の時は、ヤングケアラーや多様性はあまり言われていなかった。流れを順々に見て、データを活かした構成になっているので良いと思う。

○井上委員

現行計画は、最後の方まで読まないで現状が分からなかいので、次期計画の方が頭に入りやすい構成になっていると思う。

○武田委員

基本は、賛成である。現状を説明した後に、国を含めて政策が変わったという説明もできるので、1章と2章が逆でも良いと思う。

○小野部会長

現状から入る方が見やすいかもしれないが、計画書であるので計画策定の趣旨から説明の方が良いかもしれない。

○事務局

はじめの市長挨拶においても、国の政策などの現状に触れることになる。2章で定量のデータを提示し、3章以降の取組に意見を反映できると考える。

○小野部会長

次の計画専門部会では、構成に沿った素案が示される予定なので、構成から計画全体のイメージができると思う。

(3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて

○事務局

資料3に沿って説明

○小野部会長

委員の方から何か質問はあるか。

○井上委員

国のワークシートのデータと実績値に乖離がある項目は、西東京市が上回っている場合は、取組に力を入れていると捉えて良いのか、または、国のワークシートの基準と現状に乖離があるのか確認したい。

○事務局

一概には言えない状況である。子育て支援ニーズ調査において、子育て短期支援事業の利用日数について、預けたい日数が200日や300日などの利用実態と乖離している回答が見られることが原因の一つにある。

また、量の見込みが下回るケースとしては、ファミリー・サポート・センター事業がある。子育て支援ニーズ調査において、小学校入学後に放課後過ごす場所として、家や学童クラブの回答が多く、ファミリー・サポート・センターの回答が少ないことが要因である。

そのため、見込みと実績に乖離があるから市が力を入れていないということや、実績の方が多から市が力を入れているとは、一概には言えない。

○小野部会長

実績が算出より上回っている場合は、実績ベースで検討するとのことだが、実績が下回っている病児・病後児保育やショートステイなど、実績に基づいて計算する対応で良いかは論点になる。

本当は病児・病後児保育に預けたいが、使いにくいから使っていないという方もいると思う。令和4年度と令和5年度の実績に基づいて計算して良いのかと思うが、どのよ

うに考えるか。

○事務局

実績を参考にしつつ、今回算出に使用した調査項目以外の自由記述のご意見や、内容や場所の利便性、他の項目も勘案しながら算出する。必ずしも、実績が少ないから実績通りというわけではない。実績も勘案しながら他の調査結果、項目内容についても算定していくことになる。

○小野部会長

他にも放課後児童健全育成事業も小学5年、6年生を預かっていない学童がほとんどであり、このままで良いのかを議論する必要があるが、どのように考えるか。

○事務局

現行の学童クラブの対象は原則小学1年生から4年生までであるが、放課後健全育成事業の量は、小学5年生、6年生の放課後子供教室をその他の事業として含めて算出している。国の考え方と西東京市の実情を踏まえて、次期計画を考えていきたい。

○小野部会長

令和16年までの計画として、今後、小学5、6年生でも学童が始まるかもしれないが、今の段階では小学5、6年生の学童は基本的には載せないということで良いのか。

○事務局

小学5、6年生は学童クラブだけではなく、地域の方に開催していただいている校庭開放や放課後子供教室への参加を見越している。放課後の居場所の考え方として国の示している部分を含め、ご検討いただきたい。

○平野委員

他の自治体の話を聞くと学童と児童館の差が無く、お弁当を持参して過ごしたり、夏休みは1日過ごせるなど誰でも使えるようになっているようである。また、小学5年、6年生になっても遊びに行ける自治体もある。

西東京市は、児童館、校庭開放、放課後子供教室があるが、回数が少なくていつでも行ける状況ではないと思う。ニーズがあるが利用されていないところは、計画に盛り込むなどできると良いと思う。

○菅野委員

社会教育の取組もあり、地域差はあるかもしれないが、増えていると思う。全校で取組をすることになっているので数値も変わるのではないかな。

○小野部会長

社会教育について、西東京市の状況を説明いただきたい。

○菅野委員

最初の取組は校庭開放である。西東京市になる前から取り組んでいた。その後、各学

校の特色を活かした教室を全校で実施している。予算は決まっているが中身は各学校にある運営組織に任せられていて、大人も子どもも生涯学習として取り組んでいる。

○小野部会長

基本的には校庭開放になるのか。

○菅野委員

放課後子供教室になる。

○島崎委員

学校施設開放運営協議会という学校施設を利用している団体の組織があり、生涯学習等は協議会に委託されている。

○小野部会長

校庭開放は毎日やっているところもあると思うが、放課後子供教室は機会が制限されているのではないか。

○菅野委員

中学校では、職員会議がある水曜日に地域の方が英語を教えているところもある。

○島崎委員

学校によって差があると思う。

○小野部会長

国としては学童を小学6年生までに広げているが、西東京市は、場所がないので放課後子供教室や校庭開放などで補っているので、毎日使えないなど、学校に差があることが課題であると思う。

○菅野委員

サッカーがあると校庭を使えないということも起きるが、地域によってはそれが当たり前になっている。サッカー団体も子どもの居場所の一つではある。

○事務局

放課後児童健全育成事業の学童クラブは、保護者が一定の条件に該当する場合に利用できる。小学5年、6年生は制限をするのか、誰でも利用できるようにするのかは全体で考える必要がある。

○小野部会長

学童については、議論のポイントの一つだと思うが、その他に議論にあると良い資料があればご発言いただきたい。

○平野委員

他の自治体の資料や情報が欲しい。

○小野部会長

多摩地域で同規模の予算や人口の自治体の病児・病後児保育やショートステイ、学童クラブなどの比較した表があると良い。議論が深まると思う。

○事務局

承知した。

○島崎委員

ショートステイの拠点が足りていないと感じる。利用体制や予約をしないと使えないなどがある。年間のニーズは少ないが、西東京市は緊急ショートステイをやっていない。近隣市では実施しているところもあるので、情報を知りたい。緊急時のショートステイが出来ない場合、警察のお世話になるしかないのかという問題を感じる。

○事務局

ショートステイの乖離が生じる理由として、子育て支援ニーズ調査ではショートステイ利用時にかかる費用に触れていないため、困ったときに預けたいと思った日数の質問に、多くの日数が回答されている。実際は、西東京市は、通常1回3,000円がかかり、現実と希望の乖離が発生する。そのため、ニーズだけでなく実績も加味した見込み算出が必要になると思う。

○井上委員

西東京市は学童クラブの一次申し込みは全員受け入れているが、二次申し込みの枠がなかったり、定員超過もやむなしという状況である。子どもにとって学童は窮屈な場所になる。学年が上がるにつれて卒所を選ぶ子どもが多い。一方で、子どもが自分で放課後の過ごし方を決められるなどの良い点も考慮して、数字だけで決めずに、その他の内容を充実させることも良いことだと思う。

○小林委員

東京都以外にも子育て支援に取り組んでいる自治体もあると思う。

○事務局

関東圏内で子育て支援施策が進んでいる地域をベンチマークとして参考にするのは良いと思う。

○小野部会長

東京の多摩地区に限らず、千葉県の自治体など予算や人口規模で参考になる地域があれば比較として挙げていただき、次回も引き続き議論したい。

(4) 計画の名称について

○事務局

次期計画は、新たに若者を対象に含むことになる。現行計画の「子育て・子育てワイ

ワイプラン」は、これまでの策定経過において18歳までの子どもを中心にした印象があるので、次期計画の名称についてご意見を伺いたい。

○小野部会長

こども基本法で若者までを含めた若者支援を次期計画に盛り込むので、若者を入れた方が良いのかなど、何かご意見はあるか。

「ワイワイ」は、西東京市は市民活動が盛んでみんなでワイワイしながら決めていくことが大事という、市民参加に由来する言葉であると聞いているので、「ワイワイ」は残した方が良いと思う。

○井上委員

「ワイワイプラン」はあまりない名称であり、今まで使われていると市民権を得た感じがするので残せると良いと思う。「子育て・子育ち」は、意味は違うが一つにして、「若者」を入れるのはどうか。

○齋藤委員

「子育て」が入っていると、親の立場として読んでみようと思ったので「子育て」はあると良いと思う。

「子育ち」は初めて聞いたが、対象者を増やすためにも残した方が良いと思う。

「若者」も入れて、短くまとまると良いと思う。

○小野部会長

「西東京市子ども・子育て・若者ワイワイプラン」のように3つを入れるのが良いということか。

○齋藤委員

もう少し短くなると良いが、難しいと思う。

○中村委員

「子育ち」と「子育て」は、何が違うのだろうか。「子育て」と「若者」は、対象者が分かる。一目で自分が対象者だと分かるのは大事だと思う。

○菅野委員

若者も子育てををすると思う。

○中村委員

「子ども」や「子育て」が入っていると保護者は読むと思う。

○平野委員

初めて名称を聞いた時に、「子育ち」という言葉がとても良いと思った。「子育て」は、子どもを導いたり、子どもに与えることだが、「子育ち」は、子どもが持っている力を育む姿勢が汲み取れる。

○菅野委員

親世代には、「子育て」ということも伝えたい。子どもの人権を守るというのが「子育て」の大事な視点であると思う。

○島崎委員

「子育て」は親がするが、「子育て」は地域がやろうという意味もある。地域でワイワイする中で自分の子どもを育ててもらおうという、子育ては親だけでやるものではなくて良い、地域の子育ての先輩に頼って良いというメッセージも込められていると思う。

○武田委員

親子関係に行き詰った時に地域の方の受け入れ態勢があるのは大事なことである。そこに頼って良いんだよというメッセージを込められたら良いと思う。

○篠原委員

地域を大事に、地域の人をサポートを得ながら、一緒に子育てができて良かったと思えると良い。

「子育て」は聞き慣れないが、入っているのは良いと思う。「若者」は、ひらがなか漢字かで印象が変わると思う。

○小野部会長

本日の意見をまとめていただき、次回も引き続き議論したい。

2 その他

○事務局

次回の計画専門部会は8月16日（金）である。

○小野部会長：

それでは、第3回子ども子育て審議会計画専門部会を閉会する。

閉会